

FD News letter

No.3
2018年

CONTENTS

1. 全学 FD・SD フォーラム<第1部>
2. 室蘭工業大学 FD ワークショップ
3. 教職員と学生との協働 FD 懇談会
4. 全学授業公開週間

1. 全学 FD・SD フォーラム<第1部>

2018年9月3日(月)、2018年度の全学 FD・SD フォーラム<第1部>が開催されました。今年度のテーマは「学習者中心の教育とは何か ～学生実態調査結果等の振り返りとその活用について～」でした。岩尾 FD 専門委員会委員長より、昨年度の学生実態調査報告や授業評価アンケートの分析から、各学科の現状を共有し、今後に対する検討を進めたいとの趣旨説明がありました。

続いて、桐生大学評価室長から、「内部質保証の観点から」と題して、第3期認証評価と現在の本学に求められていることの紹介がありました。すでに、東京都市大学内部質保証方針が定められており、PDCAは3ポリシーに基づくものであるか、大学全体においてPDCAが機能しているかが重要であるとの説明がありました。

引き続き、各学部学科の分析結果が紹介されました。紙面の都合上、簡単な紹介に留めさせていただきます。

工学部では、機械システム工学科、原子力安全工学科、都市工学科より分析結果の紹介がありました。機械システム工学科からは、①学科ポリシーに沿った教育が実施されている、②学生の主体的な学修能力を向上させる仕組みが必要である、③学科教育満足度は高く、不本意入学者が高学年次になると満足度が高くなっているとの説明がありました。原子力安全工学科からは、①学生の取り組みに関して、興味のある分野を学ぶことへの取り組み度が高いが、大学の枠を超える活動の充実度や英語への取り組み度が低い、②研究内容の表現は高いが、自らものごとに取り組む力が低い

との説明がありました。都市工学科からは、説明責任を果たすためのプレゼンテーションとコミュニケーション能力に関する評価は低い傾向にあるが、技術者としての使命と責任を理解できる教養力に関する評価は高い傾向にあるとの説明がありました。

知識工学部からは、DPが達成できる授業に関しては、基礎教育は充実しているが、専門教育の充実感が十分ではないと学生が感じているとの説明がありました。人前で発表する力や自分の考えを相手に伝えるように話す力の評価が低く、この改善のためにアクティブラーニングの促進や JABEE 認定を目指すなどの Action が必要との説明がありました。

環境学部からは、社会活動への取り組みや体験学習のような授業が充実している点への評価が高く、人前で発表する力への評価が高い結果であるが、環境学部両学科間で評価に相違があるとの説明がありました。科目シラバスの分かりやすさが低い傾向があり、学修要覧の修正を行っていくとの説明がありました。

メディア情報学部からは、社会メディア学科では「体験学習する授業が充実している」への評価が高いが、情報システム学科ではわずかに低い、一方で、情報システム学科では「専門教育が充実している」への評価が高いが、社会システム学科では低いとの説明がありました。これは学科の特徴が表れた結果で、これに基づいた広報が可能との説明がありました。

都市生活学部からは、学際的な分野を多く扱い、科目を自由に選択できるが、科目の多様性の反面専門性が不明確となっているとの説明がありました。また、学生は実践的な授業が多数展開されていることを実感しているが、専門の基礎を学んでいる意識が薄いととの説明がありました。

人間科学部からは、学生の8割が資格取得を意識して入学しており、資格・免許取得を意識した教育内容を提供しているため、学生のニーズと教育内容がマッチしているとの説明がありました。主体性、コミュニ

ケーション力、人前で発表する力などへの評価は高く、学科ポリシーとの整合があるとの説明がありました。

最後に、皆川教育開発機構長より、具体的な本学の教育改革の方向性（クォーター制、科目のスリム化、CAP制、講義演習方式の大幅増加）についての説明に加え、くさび型の科目配当、GPA・f-GPA、最少履修者数、授業内容の開示、全学PBL教育などの紹介がありました。



2. 室蘭工業大学FDワークショップ

2018年9月18日(火)～19日(水)に開催された第15回室蘭工業大学教育ワークショップに、本学機械工学科の岸本先生が参加されました。

本ワークショップのテーマは「低年次科目&超大規模授業のデザイン —AL活用の提案—」でした。室蘭工業大学では来年度に改組を予定しており、その中で教育に関して以下の2点が変更されます。

- ①これまで1年次終了時に行われていた学科分属を2年次前期終了時に後倒しにする
- ②1年次前期～2年次前期に配当する授業科目は学部・学科横断型の共通科目とする

今回のワークショップでは主に上記2点を念頭に、超大規模授業(200～300名)の設計を題材にグループワーク(4～5名/グループ、大規模授業の懸念事項の洗い出し、仮想の超大規模授業のシラバス作成)が行われました。

大規模授業の課題として、「成績評価の公正性の担保」、「複数の教員が担当する場合の授業内容の調整」、「レベルの異なる学生に対するきめ細やかな指導の可否」、「学科分属の後ろ倒しに伴う学生の就学意欲の低下」、「専門教育を担当してきた教員の低年次科目に対する担当意欲の低下」が挙げられ、各グループでシラバスが組まれました。

岸本先生からは、今回のワークショップに参加することで室蘭工業大学が抱えている課題を知ることができ有意義であった、さらに、今後本学で学部・学科横断型の教育を計画する際には、室蘭工業大学の事例が参考になるであろうとの感想をいただきました。

3. 教職員と学生との協働FD懇談会

2018年9月26日(水)、教職員と学生との協働FD懇談会が開催されました。永江教育開発室長から、教育改善活動には教職員の話し合いだけでは不十分であり、そこに学生の意見が必要との挨拶がありました。その後、各学部から授業評価アンケート結果について紹介があり、全体討議が行われました。

全体討議において学生から「質問しにくい授業がある」、「単位取得に2/3以上の出席が必要な科目がある。こうした科目では、出席が強制されることになるため、必ずしも意欲的に出席しているとは限らない」などの意見が出されました。

その後、皆川教育開発機構長より、学生個々の実感を教員に投げかけて議論してほしい、学生だけで集まりを持ち、その結果を持って、教職員と学生との協働FD活動があると良いとのお話がありました。

これ以後、学部ごとに討議が行われました。工学部では、「予復習をどのような形で提示されるとやりやすいか?」との質問に対し、「授業最後に小テストを実施が良い」、「時間をおいて小テストしてもらった方がよい。分からないところを質問できる時間がほしい」との回答もあり、学生の考えの相違が見られました。

知識工学部では、クォーター制は科目の重なりが多く発生し、履修に差し障りがあるとの意見が出されま



した。教員から「大学とは何か？何故大学に来ているのか？」との本質的な問いが投げかけられましたが、学生からは明確な回答は得られませんでした。

環境学部では「授業評価アンケート結果」の報告を行い、「講義に対する満足度が高い」、「予復習の時間が少ないため、理解度が低い可能性」などを明らかにしました。交流会に参加した学生達も同じ問題意識を持っていました。今後、「授業評価アンケート」を「科目や教員ごとの分析」や「講義科目と演習科目ごとの分析」を行う必要があります。また、講義で「質問しやすい環境づくり」や「予復習の時間を増やす工夫」を行う必要があります。

メディア情報学部では、教員から言われたことを「こなす」予復習に加え、より日常的に「自分で作る学び」も予復習であると学生の認識を変えてあげると良いとの意見がありました。課題を行うことで教員が何を学んでほしいかが提示されると課題に向き合う

目的がはっきりすると、学生から意見が出されました。

都市生活学部では、授業評価アンケートを授業終了前に実施すると回答時間が短くなるため、適当な回答が増える、アンケート実施とフィードバックを授業期間中に行ってほしいなどの意見が出されました。さらに、他の学生の面前では質問しにくいとの意見に対して、IT ツールの使用が有効な可能性があるとの意見が出されました。

人間科学部では、資格を得るための学びであることへの自覚が高い、アクティブラーニング要素がある授業は学びが充実していると感じる、授業の最初に、その日の学びの内容が提示されると理解しやすいとの意見が出されました。

4. 全学授業公開週間

2018年度は、前期・後期において全学授業公開週間（2018年6月18日（月）～6月23日（土）、11月26日（月）～12月1日（土））を設定し、授業見学が行われました。見学者には、任意でフィードバック用紙（良かった点、参考になった点など）への記入・提出が依頼されました。授業見学が行われた中で、フィードバック用紙の提出があった授業は以下になります。

日付	フィードバック用紙の提出のあった科目
6月18日	都市開発プロジェクト
6月21日	Study skills
6月21日	専門キャリアデザイン
6月21日	情報セキュリティ
6月22日	住宅と不動産
6月25日	都市開発プロジェクト
11月27日	トラフィック基礎理論
11月27日	コンピュータグラフィックス
11月27日	サバイバル・イングリッシュ
11月27日	アルゴリズムとデータ構造
11月29日	文学で学ぶ英語
11月29日	音楽で学ぶ英語
11月29日	微分積分学(2)
11月29日	微分積分学(2)（上記とは別授業）
11月30日	健康と運動

先生方には授業見学にご協力いただき、有難うございました。今後は、2019年度の実施に向け、①全クォーターでの実施、②期間を2週間に延長、③全教員の1回参加、の取り組みに関して検討を進める予定です。